

四、ジョンソン米大統領のベトナム和平演説に関する緊急質問

(四三・四・四本会議)

私は自由民主党を代表して、ベトナムの和平を巡る問題につき、政府の所信をただしたいと存じます。

一、三月三十一日の夜、ジョンソン米大統領は、ベトナム紛争の解決につき、これまでの政策を思い切つて修正した、新しい提案を行ないました。即ち、それは、ベトナムの早期和平を促進するための第一歩として、北ベトナムに対する爆撃を、大幅に一方的に且つ即時に停止するというものであります。これは、昨年九月の、いわゆるサントニオ方式を超えた大胆な措置であります。

しかもジョンソン大統領は、その提案と時を同じうして、次期大統領候補に指名を求めないし、また受ける意志もないとして、ベトナム和平の達成に、一切の個人的、党派的念慮を排して、全精力を傾ける決意を表明いたしました。このことは、今回の措置に一段の真剣味と迫力

を加えたものと思われませう。

ベトナム国民は、戦後、永きにわたって、平和の青空を、かいまにさえ見ることができなかつたのであります。それにしても、漸くにしてでき上がった一九五四年七月のジュネーブ協定さえも、相対立する勢力の思惑に利用されることはあつても、平和への踏台として活用されることは遂になかつたのであります。相互の憎しみと不信の増大、更には激しい軍事行動の 에스 カレーションがあつても、紛争の收拾と建設的な平和への前進は、世界あげての願望に拘わらず、一向に見られなかつたのであります。どちらの側かが、いつの日か、この解き難いもつれを、大局的展望に立つた勇断を以て、断ち切ることが待望されておつたのであります。

ジョンソン大統領は、遂に、一方的に、みずからの決意と行動を以て、和平への第一歩を歩み出したのであります。しかもみずからの栄光を犠牲にすることによつて踏み出したのであります。私は、高邁なステーツマンシップの結晶として、彼の英断を高く評価するものであります。この英断が、実りある成果を生み出すことを、平和のために心から希求するものであります。佐藤総理におかれても、恐らくは、異常な感動を以て、この報道を耳にされたことと思ひます。総理の率直な感懐を先ず以てお伺ひいたしたいと存じます。

二、ジョンソン大統領の今回の措置は、全世界の多くの国々から、和平に対するかつてない真剣

な提案として、好意と期待が寄せられておるようであります。南ベトナムやタイ国等の反応にも、微妙なるものが見られるようであります。更に、アメリカをはじめ当事国の国内の動静には、なお、流動的な面がないとはいえません。しかし、肝心の北ベトナムが、今回の提案がその要求したところから尚相当な距離があり、従つてこれを非難しつつも、アメリカとの会談に応ずる用意がある旨表明したことは、われわれを勇気づけるものがあります。

私は、この提案こそは、現在考え得る唯一の和平への踏台であると思ひます。またこのチャンスを逸すれば、ベトナムにより大きい不幸を招き、世界の人々とりわけアジアの人々の切なる願望を、将来永きにわたつて踏みにじることになると思ひます。それだけに、私は、北ベトナムが、この呼びかけに、一応応ずることになつた以上、勇氣と英知を以て、和平への道を忍耐強く切り開いて行くことを、強く望むものであります。同時に、南ベトナム等各国の、大局的見地に立つた自重を、希望するものであります。また、アメリカとしても、一旦その權威にかけて踏み切つた以上、いかなる困難があろうとも、これを基点として、和平達成のため、不転の努力を傾けることを、希求してやまないものであります。

一方、ジュネーブ協定議長団を構成する英、ソ両国が、この提案を話し合ひの踏台として取上げ、当事者の間を周到且つ熱心に斡旋され、全世界の期待に応えて、和平の招来に全力を傾

けるよう強く希望するものであります。とりわけ私は、北ベトナムに影響力をもつソ連の出馬に大きい期待を寄せるものであります。

もとより、前途は多難であり、迂余曲折が予想されます。しかし、ジョンソン大統領の決意は、異常に堅く強いものであると思われ、且つベトナム内外における和平の気運も漸く熟しつつあるときであるだけに、私は、世界の世論を背景として、この措置が和平への前進に決定的な契機になり得るものであることを希望し、且つ期待しておるものであります。

政府は、この措置の成否につきいかなる評価をしておりますか、総理並びに外務大臣の御所見を伺いたいと存じます。併せてこの措置と北ベトナムの声明の発表以来、当事国をはじめ世界各国がどのような反応を示しつつあるかについても、この際、お示し願いたいと存じます。

三、日本政府は、あらゆる機会に、ベトナムの和平が、相互の話し合いによって、速かに招来されることを希望してきました。また、その立場において、可能な限りの努力を傾けてきたのであります。しかし、率直に言って、アジアの平和を切望する日本国民は、そこに若干の不満ともどかしさを感じておつたにちがいないと思います。私はその間の消息をよく理解するものであります。ただ、日本の立場は、ベトナム紛争の収拾につき主導的役割を果たそうとしても果たし得る国でないことを認めざるを得ないのであります。加うるに日本は、アメリカとの間に、

安保条約を締結し、それによる利益を享受し、みずからの平和と繁栄を追求する半面、これにまとわる数々の義務を背負っておりまゝ。例えば米軍の日本における兵站の補給は、安保条約第六条によつて、直接出撃する場合を除き、条約上当然の義務としてこれを拒否できる立場にはないのであります。

従つて日本政府は、ベトナムにおける和平への努力と国際信義の尊重という二面の要請を背負つて、均衡のとれた且つきめの細かい配慮を加えなければならぬ立場にあります。われわれは、日本の国益を守るために、国際信義に忠実であらねばならぬと同時に、アジアにおける隣邦の平和と福祉に可能な限り協力しなければならぬからであります。

そういう状況の下においても、政府は、紛争当事者間の誤解を解き、信頼を回復すべく、できる限り努力する傍ら、戦禍を受けたむこの住民に人道上の救いの手を差し伸べてきたのであります。また相互保障による休戦の方式を、ジュネーブ協定関係国に精力的に訴えてきたのであります。これらのことは、日本がその立場において行なつた精一杯の努力であり、日本の平和への熱意と誠意を示すものであつたと思ひます。幸いに、和平への扉は、ジョンソン大統領自身と北ベトナムの前向きな反応によつて開かれようとしております。政府は、既に、英ソ両国に対し、和平斡旋への努力を、公式に要請したとのであります。なお、今後の事態の推

移に応じて、アメリカに対する建設的提言をはじめとして、日本の果たすべき役割、日本に期待される仕事は、少なくないことが予想されます。私は、政府が、更に一層の緊張を以て、その外交機能をフルに動員して、和平の達成に協力し、日本国民の期待に応えられるよう希望してやみません。総理並びに外務大臣の御決意の程を承りたいと存じます。

四、世上一部に、ジョンソン大統領の不出馬声明を承けて、ジョンソン政権と親密な関係にあった佐藤政権の退陣を迫る向きがあります。

これはこのたび米国のとつた措置を政争に利用しようとする術策であるとは思われぬ、牽強附会のいい草であるといわなければなりません。佐藤政権の命運は、他国の政変とはかわりなく、一にかかつて、世界政局の新局面に立つて、日本の国民の負託に応える佐藤政権自体の能力にかかつておるからであります。

ジョンソン大統領の、今回の決断は、アメリカの世界政策の限界を予告するものであるとも考えられます。戦後の世界にそのヘゲモニーを誇示してきた米ソ両国は、既に昔日の指導力を弱め、世界は複雑な多極化の時代を迎えました。ヨーロッパの復興と自主性の高まり、東欧圏における対ソ自由化の動向、イギリスの後退、アジアをはじめとする発展途上国のナシヨナリズムの台頭、更には中ソ関係の悪化等は、その端的な表われと見ることができます。かくて世

界に名譽ある市民権を主張しようとする国々は、その大小強弱を問わず、イデオロギーや發展段階の相違に拘わりなく、みずからの力とみずからの分別を以て、その生存をかちとるべく、険しい道を歩もうとしております。佐藤政権は、かかる時代の潮流に対処して、日本の生存と名譽と繁栄のため、賢明且つ彈力的な対応力を發揮しなければなりません。

また、ジョンソン大統領が今回の拳に出た背景には、近年とみにその信用を問われ出したドルの防衛という厳しい課題があると思ひます。もとより、ドルの未来は、アメリカ国民の努力と能力に加ふるに諧調のとれた國際的協力にかかつており、その前途はなお多難が予想されております。このように厳しいさを増した國際經濟の環境の中にあつて、円の未来を安泰に導き、日本經濟の健全な成長を実現するため、われわれは、政府の政策その宜しきを得ると共に、國民に一層の自重と協力を求めなければなりません。佐藤政権が、今後引続き國民の負託に応えてまいるためには、そういう要請に対処し、有効な政策的力量を發揮しなければなりません。

更にベトナムの戦火が収まっても、アジアの平和と繁栄の前途は遠く且つ険しいものがあります。事態の收拾と戦禍よりの復興は、まことに容易ならざる事業であります。ベトナムをはじめアジアの諸國民の生存に必要な最少限度の經濟力の充足は、それ自体が、既に大きい課題であります。況んやその後進性よりの脱脚には絶望的とも思われる困難が横たわつております。

今回の出来事は、暗い戦闘の終わりを予告するものではあるが、同時に、多難な未来の初めを告げる警鐘であります。アジアにおける唯一ともいえる先進国日本の責任と役割は、想像を超えて大きいものがあります。

佐藤政権は、こういう課題に、大きい責任を背負っておるのであります。内外に厳しい課題をかかえて日本政局に処する佐藤総理の御決意の程を伺って、私の質問を終わります。